

反核燃・秋の共同行動むつ集会が開催されました。

11月13日

コロナ禍により昨年は開催を見送っていましたが、本年はむつ中間貯蔵施設問題が新たな局面を迎えたこともありコロナ対策を万全にして下北文化会館に30名を超える参加者で開催されました。

集会は現地実行委員会の中島寿樹委員長（原発核燃らない下北の会代表）のあいさつで始まり、基調講演として北海道泊村より瀬尾英幸氏（神恵内村長選挙立候補者）を迎え、核廃棄物の最終処分場問題で揺れる現地の状況などが話されました。

講演の中では北海道で2番目に小さい村で36年間も村長選挙もなかった神恵内村長選挙に隣接する泊村在住でありながら立候補した経過や文献調査に対する村民の意識などが語られました。また、今後、文献調査を経て環境調査を目指している原子力発電環境整備機構（NUMO）の同村での動向なども述べられました。この中では下北地域同様、小さな集落の中で自治体の方針に異議を唱えることの難しさ、近隣の泊原発が地域経済の要になって

おり、反対の声を上げ辛い実情などが語られました。

その一方で、北海道は本県と違い道条例で核廃棄物の最終処分場を受け入れないことが決まっており、これからの闘いの基軸になって行くことなど、何としても環境調査は許さない闘いを通じて青森県民と連帯していくことを表明しました。

その後、六ヶ所村から駆けつけていただいた菊川慶子さん（六ヶ所花とハーブの里代表）、工藤祥子、杉浦弘樹むつ市議より連帯のあいさつをいただきました。

最後に原子力に頼らない社会の実現を目指し、中間貯蔵施設の稼働を許さず、故郷を核のゴミで汚さず後世に残すために活動が続けるとした集会宣言を確認し、野坂庸子実行委員会副委員長（格の中間貯蔵はいらない下北の会代表）の閉会あいさつで締めくくりました。

また、会場では初めての試みとして反原発農業者による「反原発産直市場」を併せて開催しリンゴや長芋などの各種野菜の販売も行われ、集会を盛り上げました。

**原子力施設の
操業阻止へ結束**
むつで反核燃
秋の共同行動
「反核燃・秋の共同行動
2022 in むつ」（同実行
委員会主催）が13日、む
つ市の下北文化会館で開か
れた。原発や核燃料サイク
ルに反対する青森県内の市
民団体などから約30人が参
加。県内原子力施設の操業
や、電気事業連合会による
使用済み核燃料中間貯蔵施
設（同市）共同利用化の阻
止に向け、結束を深めた。
新型コロナウイルスの影響
で2年ぶりの開催となつ
た。中島寿樹実行委員長は



講演する瀬尾英幸氏
＝13日、むつ市の下
北文化会館



開会のあいさつをする中島実行委員長（上）と
連帯のあいさつをする杉浦市議

集会のあいさつで、既存原
発運転期間の延長や新型原
発新規建設を進めようとし
る政府を批判した。
実行委員の佐々木まき子
さんが、使用済み核燃料再
処理工場（六ヶ所村）完成
のめどが立たないことなど
を念頭に「ふるさとを核の
ゴミ捨て場にさせないよう
行動を継続しよう」との集
会宣言を読み上げ、参加者
が拍手で採択した。
その後、北海道電力泊原
発が立地する北海道泊村在
住の瀬尾英幸氏（80）が「放
射性廃棄物最終処分場の概
要調査を許さない活動の地
域の実情」と題し、講演し
た。（松橋広幸）



大間でも大間原発を許さない二つの行動がありました 現地チラシ配布行動と活動交流会を開催

「大間原発に反対する地主の会」（今村修会長）は 11 月 3 日、毎年実施している現地チラシ行動と北海道の市民グループを交えた活動交流会を開催しました。行動には県内各地、北海道函館地区から 25 名が参加し、現地で長年反原発活動を担ってきた故奥本征雄氏の墓参を行い、その後、町内に原発に頼らない地域づくりなどを記載したチラシを配布しました。

その後、会場を大間サンホテルに会場を移し、活動交流会

を行いました。交流会では佐藤亮一さんが現地の状況などを報告しました。また、先の青森市議選で当選した反原発市民グループの小熊ひと美さんも参加、あいさつしました。

例年はチラシ行動の後に地主の会所有地で栗拾いを実施していましたが悪天候もあり今回は実施を見送り、2時ごろ散会しました。下北からは佐藤亮一さんのほか、奈良宏一さん、栗橋が参加しました。



雨の中、県内外から集まりました



大間原発の状況を報告する佐藤亮一さん

大間原発工事開始5回目延期・完成30年度以降？

電源開発・大間北方沖活断層を認める！危険な原発建設中止を！

原発中心部に民家がある原発は世界に例がありません。

住民避難道路もない大間原発

函館市と函館市民が建設中止を求め裁判中！

原発から30キロ圏内の函館市及び函館市民は、大間原発建設について安全性への不安と全く説明がない等を理由に、建設中止を求めて裁判を起こし係争中です。全国で、地方自治体が訴訟を起こしたのは初めてです。

原発の温排水でマグロも住めなくなる！

昨年8月の大雨で国道279号線が土砂崩れなどで不通となりました。原発の建設には住民避難道路の整備が必要ですが、その道路でさえ造られていません。

さようなら原発 青森・北海道合同集会、100名を超える参加者がありました

11月6日、大間町開発センター駐車場で「やめるべ、大間原発！11・6 さようなら原発 青森・北海道合同集会」がされました。この集会は例年、青森県平和労組会議と北海道平和運動フォーラムの共催で行われていましたがここ2年はコロナ禍で開催されておらず3年ぶりの開催でした。今回は参加者を青森、北海道それぞれ50名ずつに限定して100名規模で行われました。下北からは大泉さんと栗橋が参加しました。

大間原発は2008年に着工しましたが、現在、本体工事は止まったままとなっています。9月には安全強化対策工事の開始時期を「2022年後半」から「2年程度延期」することになり、運転開始時期の見通しも2030年度以降

になるとしています。世界初のフルMOXの原発で、安全性が最も心配ですが、電源開発が隠し続けた活断層や断層が次々と見つかり、規制委員会の安全審査は進まず、工事の再開は5回も延期されました。14年前に工事に着工しながら、完成のメドさえ明らかに出来ない原発は、それだけ危険性が大きいものです。

集会は青森県平和労組会議阿部議長のあいさつで始まり、来賓として原水禁国民会議の藤本泰成共同議長が参加しました。その後、青森・北海道のそれぞれの代表より活動報告や決意表明があり、決議文を採択し、フェリー一埠頭まで「大間原発はいらない」「原発をなくそう」などとシュプレヒコールしながら町内を行進しました。



見切り発車の中間貯蔵施設稼働は許さない！

「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」がむつ市長へ申し入れ書を提出！

「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」（野坂庸子代表）は6項目にわたる疑問点などをむつ市長宛に申し入れ書として提出しました。申し入れはむつ市企画政策部角本部長以下が対応し、申し入れの趣旨などを30分程度にわたり話し合い、後日文書での回答を求めるとしました。

使用済み核燃料中間貯蔵施設が原子力規制委員会の設工認審査を終えるなど、工事完了が近づくなど新たな局面を迎えていること、六ヶ所再処理工場完工が26回も延期

され今後の見通しも全く不透明であり、中間貯蔵された使用済み核燃料の搬出先が存在しないこと、むつ市長が業界誌への投稿で同規制委員会の慎重な審査体制を批判し、「トラブルが発生したら稼働しながらでも対処できるのではないか」などと述べ住民の安全を軽視する極みの発言であること、福島原発事故以降の市民感覚の把握のための住民説明会が開かれていないこと、これらについて6項目の疑問点を申し入れたものです。また、申し入れには杉浦むつ市議も同席いただきました。



野坂代表が市役所を訪れ、角本力企画政策部長に申し入れ書を手渡した。野坂代表は「（施設稼働）反対の立場の意見を聞いてもらい、ぜひ宮下市長から回答を頂きたい」と話した。

申し入れは、▽核燃料サイクル計画が見直された場合、中間貯蔵施設をどのように位置付けるか▽事業者との安全協定締結前に市民の意見を聞く場の設定を求める―など6点。

むつ市に立地する使用済み核燃料中間貯蔵施設の在り方に関し、「核の中間貯蔵はいらない！下北の会」（同市、野坂庸子代表）は4日、宮下宗一郎市長宛ての申し入れ書を提出した。

むつ・中間貯蔵施設
意見を聞く場の
設定など申し入れ
市に市民団体

申し入れ書の内容

- (1) 貴職が昨年の資源エネルギー庁の第6次エネルギー基本計画のパブリックコメント応募に関して『中間貯蔵事業を受け入れている立地自治体として、市議会及び市民に対して使用済み核燃料の搬出先について説明することが困難となる』としていることについて全く同感であります。つきましてはこれに対して資源エネルギー庁の回答である『搬出時に稼働している再処理工場で処理する』を評価すると議会で発言しておりますが、その真意を伺います。
- (2) その意味においても仮に操業のための安全協定などの各種手順が整ったとしても、再処理工場の操業が軌道に乗ったことが確認されるまでは、使用済み核燃料の搬入を認めるべきではないと考えますが、これについて貴職の見解を伺います。
- (3) 核燃料サイクル計画の見直し論が政府与党の間にも少なからず存在していると思われませんが、今後、わが国の核燃料サイクル計画が見直しや中断となった場合は、むつ中間貯蔵施設の定義自体が大きく損なわれることとなりますが、そうした場合、貴職は本施設の存在を如何に位置付けるのか、その見解を伺います。
- (4) 使用済み核燃料の搬入元とされる東京電力あるいは日本原子力発電からの搬入は諸般の事情の中でメドが立っていないと窺えます。こうした場合において、このことを事由に関西電力など協定外電力会社の搬入については絶対認めないことをあらためて明言していただきたいと申し入れます。
- (5) 貴職は「Energy for the Future」誌10月号に原子力規制委員会の審査方針を「糞に懲りて膾を吹く」として批判しながら、中間貯蔵施設への使用済み燃料キャスク搬入を先行させ、残る課題は搬入後に解決すべきとの考えを示していますが、このことこそ私たちが一番恐れる貴職のスタンスと案じて止みません。このことへの貴職の投稿の真意を伺います。
- (6) こうした中間貯蔵施設をめぐる課題について、福島原発事故以降、市民の考え方も一定程度変わりつつあると私どもは判断しております。事業者側と安全協定を締結する前に広く市民の意見を聴く場面の設定を強く望むものです。あらためてこうした考え方へのご回答をお願いします。

11/5 デーリー東北

施設共用化、疑念は消えません

むつの中間貯蔵
「共用」言及せず
関電社長
むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を電力各社で共同利用する構想を巡り、関西電力の森望社長は21日に東京都内で開いた記者会見で「あらゆる可能性を求めて検討していく」と述べたものの、共用化構想に関する具体的な言及は避け

た。関電が2023年末までに中間貯蔵施設の計画地点を確定すると福井県と交わした約束については「しっかり果たす」と強調した。

関電は自社の原発が立地する福井県の要請を受け、同県外での貯蔵先を23年末までに提示すると昨年2月に約束。その際に森本孝社長（当時）がむつ共用化構想を「選択肢の一つ」と明言していた。

森氏は今年6月に社長就任。21日の会見では中間貯蔵について「最も重要な経営課題の一つで、国や電気事業連合会と連携して取り組む」と強調。一方でむつ市の名前は一切出さず、「立地に関わる話は差し控える」「あらゆる可能性を追求する」と繰り返した。

10/22 東奥日報

《連合下北地域協議会 第34回定期総会開催！》

すべての働く仲間を守り抜く集团的労使関係を追求する運動方針などを確認しました。

連合下北地域協議会は11月18日、ホテルニューグリーンで第34回定期総会を開催しました。総会には43名（うち委任状18名）の代議員が参加、議長にJP労組下北支部の坂井代議員、オールマエダユニオンの浜谷代議員を選出し、来賓として連合青森から大澤事務局長を迎えて開催されました。

総会では2022春季生活闘争や参議院選挙闘争の総括、ロシアのウクライナ侵攻抗議活動や各種ボランティア活動経過などが報告、確認されました。また、新年度の運動方針では、多様な就労者を含めた集团的労使関係の構築、社会連帯を通じた平和、人権、社会貢献の取り組み、これらの政策実現のための政治活動の強化などが確認されました。そして下北地域の固有課題として企業撤退などの際の雇用確保への取り組みを強めること、大規模自然災害想定への支援体制の確立や社会福祉協議会などの地域組織との連携ネットワークづくりを強化し地域の防災、減災対策の充実を目指すこと、明年の統一地方選、むつ市議選などで推薦候補の必勝へ向けて政治活動の強化を図ることなどが確認されました。

最後に谷川議長の団結三唱で総会を終了しました。



来賓のあいさつをする連合青森大澤事務局長



総会終了に向けて団結三唱する代議員

地方自治体選挙 社民フォーラム所属/立憲民主党公認候補の必勝を

今月18日に投開票される十和田市議会議員選挙および明年4月の統一地方選において社民フォーラム所属の立憲民主党公認候補が次々に核燃されており、それぞれ各陣営では闘いのスタートを切っています。とりわけ間近に迫る十和田市議会議員選挙について、それぞれ友人知人への投票要請などをお願いいたします。

◆十和田市議選 立候補予定◆

12月11日告示/18日投票

◆県議選・上北郡区 立候補予定◆

2023年4月予定

◆統一地方選◆

2023年4月予定



太田まさゆき

・1974年4月26日生
(48歳)

経歴等

- ・十和田市職員
- ・十和田市職員労働組合
中央執行委員長
- ・自治労青森県本部
副中央執行委員長



久慈しかず

・1951年12月19日生
(70歳)

経歴等

- ・林野庁青森営林局三本木
営林署
- ・十和田市議会議員
(2期目)



八戸市議選（現職）
山名 文世



七戸町議選（現職）
岡村 茂雄



弘前市議選（新人）
赤平 泰衛

いずれも現時点で確認されている立憲民主党公認かつ社民フォーラム所属の立候補予定者です。今後も確認され次第お知らせします。

県議選むつ市区、越前陽悦議員（自民）の引退表明で波乱含みの情勢

自民の新人擁立焦点に
県議選むつ市区・現職越前氏勇退

立民、候補模索に転換

来年春の県議選むつ市区（定数3）に出馬するとみられていた自民党の越前陽悦（77）が勇退表明した。自民は新人候補の擁立に動き出すことになるが、選挙戦まで半年を切る中、選挙がスムーズに進むかが大きな焦点となる。候補擁

立に慎重姿勢を見せてきた立憲民主党は、局面が変わったことを受け、自民の候補選考を見極める一しなからも、新人擁立を模索する構えに転じている。『現職3人が出馬する」とばかり思っていた。『もう1期』と越前氏をかなり引

県議選むつ市区 過去3回の結果

	得票	候補者名	党派・現新別
2011年	11,730	横浜 力	自 民 新
	10,781	菊池憲太郎	無所属 新
	9,574	越前 陽悦	無所属 現
	7,470	村中 徹也	無所属 新
2015年	10,676	越前 陽悦	自 民 現
	10,647	菊池憲太郎	自 民 現
	8,498	横浜 力	自 民 現
	6,370	藤森とも子	自 民 新
2019年	11,339	菊池憲太郎	自 民 現
	9,519	山本 知也	無所属 新
	7,810	越前 陽悦	自 民 現
	3,446	杉浦 弘樹	無所属 新
	2,192	横垣 成年	共 産 新

き止めたが、『うん』とは言ってもらえなかった。自民党むつ市支部の柳谷謙支部長は8日、突然の勇退表明に戸惑った様子を見せながら語った。現有の3議席維持が最低ラインとなる自民は、11日に同支部総務会、13日に選挙区内全支部の支部長・幹事長による会議を開き、菊池憲太郎（53）と山本知也（39）が申請した公認願の取り扱いを協議する。柳谷支部長は「まず2人の公認を確定させる」と話しており、擁立に向けた具体的な動きは来週以降となる見通しだ。ただ、今後の候補選考には曲折を予想する声が少ない。『県議選に出る準備している人は誰もいない』と、ある自民むつ市議。市政界からも「今後は流動的な展開になる」「しばらく下北がごちゃごちゃしうだ」との見立てが出ている。一方、立憲民主党むつ市支部は8日、県議選対応を協議する役員会を開いたが、越前氏勇退の情報が流れてきたこともあり、その真偽を見定めるために「具体的対応は決められなかった」（能登勝彦支部長）。これまで支部内では、自民現職3人の一角を崩すのは難しいと見て、候補擁立に消極的な意見が多かったが、ある支部関係者は新人が相手となれば「話は別」と率直に語る。役員会では越前氏勇退のケースを想定し、前回県議選で敗れた杉浦弘樹むつ市議（43）を含めた人選も議論した。候補擁立については年内に方向性を出す方針。能登支部長は「越前氏の後継が誰になるのか見極めつつ支部内で情報共有を図り、対応していきたい」と述べた。

立憲民主党むつ下北支部でも対応を議論
党支部では全3議席の自民独占を許さない立場から県議選に臨む対応を議論してきました。来年の統一地方選挙は党勢拡大へ向けて絶好の

機会です。こうした中で特に今回はベテランの越前議員の勇退という状況もあり、あらためて情勢の把握や他党の動向を見極め、年内には基本的な方針を確立することとしました。

何としてもすべての定数3名区以上で非自民系県議のいない選挙区での勝利が青森県政を変える原動力となります。現在はむつ、上北郡、三戸郡の3選挙区が該当します。

選挙区	定数	構成市町村
東津軽郡	1	東津軽郡全域
西津軽郡	1	西津軽郡全域
南津軽郡	1	南津軽郡全域（除：大鰐町）
北津軽郡	1	北津軽郡全域（除：中泊町）
上北郡	4	上北郡全域
三戸郡	3	三戸郡全域
青森市	10	青森市
弘前市	6	弘前市、西目屋村
八戸市	8	八戸市
黒石市	1	黒石市
五所原市	3	五所川原市、中泊町
十和田市	2	十和田市
三沢市	1	三沢市
むつ市	3	むつ市、下北郡全域
つがる市	1	つがる市
平川市	2	平川市、大鰐町

↑ 11/10 東奥日報日報 11/21 デーリー東北 ↓

堺大間町議が出馬意向
県議選むつ市選挙区

来春の青森県議選むつ市選挙区（定数3）に、大間町議で自民党大間町支部青年局長の堺祐介氏（44）が出馬の意向を示していることが20日、分かった。堺氏は取材に対し、「公認申請に

向けて、支部を通じて調整をしている」と述べた。堺氏は同町出身で青森調理師専門学校ケイエム学院卒。町内で飲食店を経営している。2019年の町議選で初当選し、現在1期目。同選挙区では現職の越前陽悦氏（77）が今季限りでの勇退を表明。選挙区内の自民各支部が新人候補の選考を進めている。（松橋広幸）

青森県議会の会派別議員数

会派名	自由民主党	立憲民主党	公明健康会	日本共産党	青和会	県政の会	欠員	現員
議員数	31	4	3	3	3	2	2	48

※県政の会＝県民が主役の県政の会

コロナ禍は依然として猛威を振るい、旧統一教会問題も収まる気配もない中、下北の課題もいろいろ報道されました。

抗原検査キット 無償配布を拡充

むつ市

新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に対応するため、むつ市は25日、有症状者に対する新型コロナウイルス抗原検査キットの無償配布を拡充すると発表した。むつ総合病院臨時駐車場に設置する「抗原検査キット配布センター」に加え、28日から川内診療所、太畑庁舎、脇野沢庁舎でも配布を開始する。

市は8月に同センターを開設。新たに設置する3カ所でも、せきや発熱などの症状がある、基礎疾患がない65歳未満の市民らを対象に電話予約の上、無料で抗原検査キットを配布する。

また、新型コロナウイルス抗原検査キットによる自己検査で陽性となった市民を対象に、28日から市内15医療機関が電話診療を開始する。

(松橋広幸)

←11/5 デーリー東北

↑11/29 デーリー東北

もうグチャグチャな岸田首相……



防災避難路の整備促進要望

県に、大間原発三ヶ町村協議会



三村申吾知事（右から2人目）に道路整備を要望する下北の3町村長川内、青森県庁

大間、風間浦、佐井の3町村で構成する「大間原発三ヶ町村協議会」（会長・野崎尚文大間町長は4日、三村申吾知事に對し、国道279号のバイパス化など防災避難路の整備促進を要望した。

のはむつ市側の一部区間にとどまる。大間原発は2030年度の運転開始を目指しており、3町村長は開始までの整備完了を要望。青森県庁で要望書を受け取った三村知事は「広域避難路の重要性は認識している」と述べ、整備促進に取り組む姿勢を示した。

要望書の提出後、非公開で会談。終了後の取材に、県側から整備完了の目標時期は示されなかった。野崎町長は「県は30年度までと目標をはっきり示してほしい」と訴えた。（岩淵修平）

燃料価格高騰対策で 4千円クーポン配布

むつ市

むつ市は4日、燃料価格高騰対策として、灯油やガソリン購入時に使えるクーポン券4千円分を全ての市民に配布すると発表した。12月1日時点で同市に住む市民がある市民が対象となる。来月1月中旬ごろから郵便で配達し、ガソリンスタンドやホームセンターなど市内28の店舗で利用できる予定。

市役所で記者会見した宮下宗一郎市長は「雪国で灯油は使うし、オール電化だとしても地方都市なので車には乗っている。生活者支援として燃料費が大切と考えた」と述べた。

このほか畜産業者と水産業者（養殖）に対し、飼料費高騰分の4分の1相当額を、200万円を上限に給付する。燃料価格高騰の影響が著しい一般公衆浴場事業者とクリーニング業者に對しては、最大30万円を支給する。燃料価格高騰対策3事業の予算総額は2億8千万円で、国の交付金を活用する。市は、次期定例市議会に補正予算案を提出する。

↑11/5 東奥日報

↓11/17 東奥日報

持続性高い公共交通を むつ市事業者と意見交換

むつ市事業者と意見交換

むつ市は16日、市内のバス、タクシー8事業者と行った意見交換会で、今後の公共交通政策の方向性を示した。中学校の部活動の地域クラブ化や高校統廃合に伴う需要の変化や、各種事業所の立地動向などを適切に捉えながら、持続性の高い公共交通ネットワークの形成を図っていく。

市役所で行った意見交換会には宮下宗一郎市長とバス、タクシー計8事業者の代表者が出席した。市側は今後の公共交通政策について、市町村間をまたぐ路線、旧町村（川内・大畑・脇野沢）、市街地（旧むつ市）の三つに分けて考え、既存の公共交通を維持しながら、それぞれの需要やまちの変化に合わせた交通網の形成を図る考えを示した。

市によると、非公開の意見交換では、事業者側が市の考えに理解を示した上で、乗務員不足や利用者減少への懸念などを示したという。

市は、来年度予算案の編成過程で施策を具体化していく方針。宮下市長は終了

後の取材に「タクシー業界とバス業界が連携することが大事。市がそのつなぎ役となつて、公共交通全体を推進していく」と語った。

(山内はるみ)

むつ川内の路線バス湯野川線3月で廃止
予約型タクシー検討

むつ市（本社・むつ市）が同市内地区で運行している路線バス「川内―湯野川線」が2023年3月31日で廃止になることが16日分かった。同社は取材に、廃止理由として利用者の減少を挙げた。

市が16日に行った公共交通の意見交換会で報告した。同路線は、同社が11年以前の事業者から運行を引き継いだ。1日5便（平日のみ）で、市によると、21年度の利用者は延べ1227人だった。

市は代替として23年4月から予約に応じて運行する「デマンド型乗り合いタクシー」を検討しており、運行を委託する事業者と協議している。

(山内はるみ)

「検討委員会」の設置を

むつ工高・大湊高の

統合問題に係る要望活動

青森県教育委員会の第2期県立高校再編実施計画により大湊高校とむつ工業高校を統合してむつ工業高校敷地を活用し、2027年度に開校することとされている。

11月9日、むつ市や下北郡町村会及び大湊高校、むつ工業高校の関係者ら7名が青森県庁を訪ね、青森県教育委員会の和嶋教育長に対し要望書を手渡し要望活動を行った。

要望団体として、むつ市、むつ市議会、下北郡町村会、下北郡町村議会、議長会、下北市町村教育委員会連絡協議会、むつ市連合PTA、むつ商工会議所、むつ市川内町商工会、大畑町商工会、青森県立むつ工業高等学校

当日は宮下市長、むつ市議会佐々木副議長、阿部むつ市教育長、大見むつ市連合PTA会長、内田むつ商工会議所会頭、吉田むつ工業高校後援会理事長、奥川大湊高校後援会理事長の7名が出席、計画が公表されて以降、地元住民の意見が反映されていないことから議論の場となる地元13団体を交えた「検討委員会」を早急に設置していただきたい旨の要望を行った。

県教育委員会からは和嶋教育長以下関係者4名が出席、対応した。

11/17 ウィーク下北

トンネル軸の新ルート

災害避難道 県が検討

横浜町と六ヶ所村、東通村が、原子力災害時の避難道として県に早期の道路改良を求めている県道泊陸奥横浜停車場線について、県が山間部へのトンネル新設を軸とした新ルートを検討していることが11日、県への取材で分かった。3町村の要望を受けて、県が現道に代わる改良ルートの調査を進めていた。

(都築理、小橋徹)

県道 泊陸奥横浜停車場線



※県の説明を基に作成

同県道は太平洋側の国道338号と陸奥湾側の国道279号を結ぶ。原子力災害に加え、津波などの災害時の避難道路としての役割が期待されるが、山間部の10・1kmの区間はほぼ未舗装で道幅が狭く、急勾配、急カーブも多いため、冬期間は閉鎖されている。県によると、未整備区間に片側1車線の新ルートを整備し、このうち横浜町と六ヶ所村の境付近の山間部に長さ約2kmのトンネルを設ける。勾配やカーブの解消で、10・1kmの同区間は5km弱に短縮される見通し。通年通行も可能になる。本年度中に地質調査などを踏まえたルートの予備設計に着手する。



↑11/12 東奥日報
←11/30 東奥日報

【編集後記】

宮下市長が業界誌への投稿で原子力規制委員会のむつ中間貯蔵施設の審査方針を「糞に懲りて膾を吹く」として批判しながら、使用済み燃料キャスク搬入を先行させ、残る課題は搬入後に解決すべきとの考えを示していますが、このことこそ私たちが一番恐れることです。また、核燃サイクル事業によるプルトニウムの管理が日本の安全保障政策も不可欠だとしています。核燃サイクルが軍事目的などと述べているのとおなじことではないでしょうか。

むつ3高校へバス送迎

東通村は来年4月から、現在小・中学生を対象としているスクールバスに高校生を追加し、むつ市内の3高校（田名部、むつ工業、大湊）まで直接送迎する。

村内を走る下北交通のバス4路線が来年3月末で廃止となることに伴う対応。バス廃止により17集落が公共交通の空白エリアとなるため、予約型タクシーの運行も始める。29日の村議会全員協議会で村が報告した。

村は、村内各地区と東通小・東通中を結んでいる小中スクールバスを、小学生対象と中・高校生対象に再編。高校生は東通中に到着後、それぞれバスを乗り換えて3校に向かう。下校時も3校から各地区へ運行する。

利用料は無料。バス運行は平日のみとする予定。予約型タクシーは17集落とむつバスターミナル（同市）を結ぶ。現行の路線バスの運行時間を基本に、往復6便程度を設定。前日午後5時までに利用便を予約する。停留所は設けず、自宅など指定場所まで乗降できる。現行のバス運賃を徴収し、差額は村が負担する。

このほか村診療所への輸送バスの運行も見直し、来年4月から日曜を除き、村中心部を循環するバスを各日2〜3便運行する。

村企画課によると、交通施策全体に関する予算は、本年度から約1100万円減る見込み。

(熊谷慎吉)

名前だけは耳にしたことがありますが、その歴史や由来は殆ど知りませんでした。皆さんには「釈迦に説法」かも知れませんが、関連する民話や伝説もちょっと読み返してみませんか。

むつ市川内町、蛸崎城跡は陸奥湾を望む小高い丘にあります。建武元年（1334 年）、根城南部氏 4 代・師行の目代として配置された武田修理の居城でした。のちに武田氏は蛸崎氏と改め、改築された蛸崎城は錦帯城と称されました。その後、根城南部氏 6 代・信政は後村上天皇の甥・良尹（ながただ）を下北地方、田名部の領主として迎えました。この時、良尹は現在のむつ市城ヶ沢にあったという順法寺城を居城とし、人々は天皇の血を引く良尹の一族を北部王家と呼んだとされています。

文安 5 年（1448 年）、北部王家 5 代・新田義純は重臣の蛸崎蔵人の謀略により、子供達と共に暗殺されま

した。それにより、蔵人は北部王家の実権を握ることになりました。世に言う『蛸崎蔵人の乱』です。

蔵人による謀反の報は、北部王家とゆかりの深い根城南部氏にももたらされました。13 代当主・政経は、幕府に事の詳細を報告し、後花園天皇から蛸崎蔵人追討の勅許を得ていました。その間、蔵人は北部王家の財力をつぎ込み、城を強固な構とし、松前アイヌの兵など多くの兵力を集めたといひます。

康正 2 年（1456 年）12 月、いよいよ勅許が出ます。根城南部軍は蔵人への攻撃を開始しましたが、大雪という条件に有利であったアイヌ兵の勢力により苦戦が続きました。政経

軍は海上から錦帯城を奇襲、蛸崎軍を破り、錦帯城は落城、蔵人は蝦夷へ逃げました。

蛸崎蔵人の乱を平定した根城南部氏は、幕府や朝廷からの許しを得てからの戦であったため、恩賞として北部王家の所領・田名部 3 千石と錦帯城等に蓄えられていた莫大な金・銀や銭、食料を与えられました。

こうして南部政経の領主としての威令は一段と高まりました。その後は南部氏の領地として、一族の新田盛政を城代としました。

現在は、旧蛸崎小学校の敷地を含む一帯であり、「錦帯城公園」として登山道が整備されており、土塁などの遺構を確認することができます。



蛸崎氏を巡る伝説・民話～郷土史家・立花勇氏書籍より

【姫杉】川内町蛸崎の香ノ木畑というところに、むかし蛸崎城主・蛸崎信純の娘、松子姫の手植の杉とも、また松子姫の墓標とも伝えられる老杉があった。明治末の頃で樹令 500 年をこえるといわれていたが、そのころ老木を是非ほしいという人があり、畑の持ち主であった干場という人が村人たちの止めるのも聞かず、その木を売ってしまった。こうして老杉は伐採されてしまったが、その後、干場家には病人が続出し、更に当主は気がふれて不幸が続いた。心配した家人が占者に占ってもらったら、

樹霊の祟りだという。その噂が部落に広がったため、家族はその祟りの続くことを恐れ、老杉の伐採跡に小祠を建て、その樹霊を祭ったという。

蛸崎の西端にある七面山は、昔の蛸崎氏の城址といわれ、その頂上には唐笠松とよぶ老松がある。昔から部落の人たちが出漁したとき沖からの目じるしとなる老松であった。昭和 10 年頃この地域の立木を売り払った際、この老松も伐採されようとしたが、部落の人々は先の姫杉の祟りを思い出し後難を恐れてこの木は切らなかった。

【灯松】むつ市角違の海岸は明治の頃まで今の位置よりも 60 メートルも沖のほうに広がっていて、その海岸にそって樹令数百年を数える松の立木が並んでいたという。

これは、昔、蛸崎氏が下北へやってきてこの辺りを通りかかった夜半、不案内の土地で灯火の用意もなく困っていると、先の方にボオッと灯り見えた。喜んでその灯りを頼りに近づいてみると、角違の海岸に立ち並ぶ松の梢にいくつもの灯火があったので、その灯を頼りに足を急がせ、その夜のうちに蛸崎に着くことができた。

のちに角違の人々を呼び寄せ、「あの時、松に灯を灯して、自分の難儀を救ってくれたのは誰だ」と訊ねたが、それを知る者はいかなかった。不思議に思った蛸崎氏は「あれはきっと神が我々を憐み、救ってくれたに違いな

い、そしてあの松は神霊の宿る木々なのだろう」と思って、村人たちに、老松の伐採を禁じたという。

このことは時代が 変っても長く受け継がれ、角違では代々、個人の私有地内にある松でも勝手に伐採することは禁じられたという。

だから明治の頃までは、海岸や神社の近くや、今の稲荷堂のあたりには松の大木が多く残っていたが、その後、海岸は潮流によってどんどん削られ、そのため海岸にあった老木は倒れたり、伐採されたりしてなくなってしまったし、海岸から奥のほうに残っていた老木も、その後の農地の拡張のため次々に切られ、今は一本も見られなくなってしまったという。

※「下北半島の歴史と民俗」より抜粋